

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：大和川ヒキノカサ発見！～大阪府で唯一自生するヒキノカサの保全とモニタリングについて～		
水系/河川名：大和川水系/大和川	河川分類：大河川	
河川の流域面積：1070km ²	整備計画流量：2800m ³ /s(W=1/30)	セグメント：2-2
事業：維持管理	事業開始年度 平成16年度	
目標設定：定性的	段階：A(フィードバック時)	
課題・目的(主な)：貴重種、特定動植物の保全		
工法(主な)：移植、植樹		
配慮事項(主な)：施工管理		

背景・課題、目標設定

＜背景＞

環境省のRL(レッドリスト)の絶滅危惧Ⅱ類に選定されているヒキノカサは、大阪府下では絶滅していたと考えられていたが、平成11年に大和川の堤防で確認された。

そこで、河川整備によりヒキノカサが消滅あるいは減少する可能性があったため、試験移植及び植戻しを行い保全のための対策を講じる必要があった。

＜課題＞

- 詳細な生態が把握されておらず、移動事例がない。
- 日当たりの良い富栄養水湿地などの生育適地が少ない。
- 個体数が少ない。

＜目標＞

本移植を行う上での具体的な保全対策の立案

取り組み内容・対策例

・ヒキノカサの移植に適した地点を選定し、試験移植を実施しモニタリングを行った結果を踏まえて本移植を行った。

＜移植地の選定＞

ヒキノカサの生育地の条件である、『日当たりの良い湿地』、『周辺に背の高い植物がない場所』、『湿地や田んぼのあぜや、湿度の高い堤防など湿った環境』以上の三つを考慮し、河川環境情報図や河川現況図などを用いて机上にて移植候補地を選定。詳細な土壌調査を行った結果を参考文献による比較と自生地との比較による2つの基準にて適正が高いと思われる地点を選定。

→計3地点が選定された。

＜試験移植＞

H20年度：移植候補地として選定された3箇所に『確実性が高く、早期に回復することが期待できる』手掘りでの移植を実施。

H23年度：堤防工事の際にはまとまった面積の移植が必要になることから従来から用いられている『エコユニット工法』により大規模な試験移植を実施。

→モニタリングの結果良好な生育が確認され、移植先での定着がみられた。

＜本移植＞

H25年度：エコユニット工法は特殊な重機を使用するため業者が限られ工事費用が割高であるという課題がある。そこで、維持作業でも対応が可能な『バックホウを用いた簡易な工法』を実施。

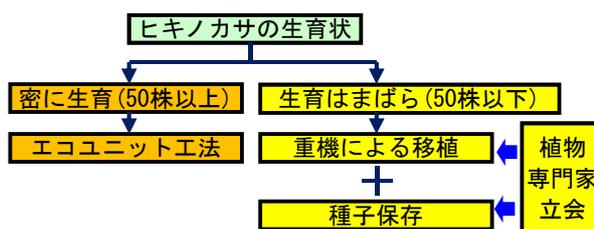
モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

＜モニタリング結果＞

- ・エコユニット工法では、移植後のモニタリング結果も良好で、確立された手法といえる。
- ・重機での移植では、今回の移植では定着が低かったが、**丁寧な移植を行えば定着できる可能性**が示唆された。



＜今後の対応方針＞



＜施工前＞



＜施工後＞



大和川ヒキノカサ発見！

～大阪府で唯一自生するヒキノカサの保全とモニタリングについて～

Keywords : ヒキノカサ, 絶滅危惧種の保全, 保全方法



環境省のRL（レッドリスト）の絶滅危惧Ⅱ類に選定されているヒキノカサは、大阪府下では絶滅していたと考えられていたが、平成11年に大和川の堤防で確認された。

そこで、河川整備によりヒキノカサが消滅あるいは減少する可能性があったため、試験移植及び植戻しを行い保全のための対策を講じた。